

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームマザーレイク
（ユニット名）	2階
所在地 （県・市町村名）	大津市黒津1丁目6-18
記入者名 （管理者）	松浦 記美子
記入日	平成 21 年 9 月 15 日

(様式第1号)

自己評価票

(個別表)

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	☒ ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全体会議にてスタッフ全員の意見をまとめ、独自の理念に基づいて運営している。また、理念を見やすい所に掲げるようにしている。		
2	2	☒ ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体会議等で事業所としての方針を職員が共有できるようにしている。		
3		☐ ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所される方には理念を伝え、理解を得て入所して頂いている。	○	家族や地域のの人々との交流を深めていく中で理解して頂けるよう努める。
理念と共有 3項目中 2 項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		☒ ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事の参加等をお願いしたり、手芸教室を開催して頂いたりと少しずつ関わり合いが増えてきている。		
5	3	☐ ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の自治会への加入が受けて頂けないため、地域の行事にはほとんど参加できていない。施設の行事に参加して下さる地域の方もいる。	○	自治会への加入は現状難しいが、地域の活動等に参加出来るところは努めていく。
6		☐ ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	救命講習会(AED)への参加を呼び掛けている。	○	事業所内で話し合う機会を設ける。地域に貢献できることがないか探る必要がある。
地域とのつきあい 3項目中 1 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I－3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	☒ ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を基に改善できるところは可能な限り取り組んでいる。時間を限定して門扉の解放等取り組めるようになった。		評価を通して具体的な改善に向けて意識していく。
8	5	☒ ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、近隣住民、家族らの参加により運営推進会議を実施し、意見交換の場や現状報告を行っている。		定期的に開催する。意見を反映してケアに生かす。
9	6	☒ ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大津市の介護保険課に協力・助言を得ながら取り組んでいる。		
10		☒ ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な方には利用して頂けるよう支援している。現に成年後見制度を利用されている方もおられる。		成年後見制度に対してスタッフが学ぶ機会を持ち、知識を高め活用するよう努める。
11		☐ ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員全体の研修会で取り上げ、より一層の周知徹底に努める。	○	研修で取り上げることが少ないので、事業所内で事故が起こらないよう研修の時間を設ける。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 4 項目					
I－4. 理念を実践するための体制					
12		☒ ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の不安や心配事を聞き、安心してサービスを受けれるよう最大限の努力している。		
13		☒ ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、外部の相談役を招き、利用者の意見を聞いてもらう機会を作っている。		
14	7	☒ ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月次報告にて利用者の状況を家族に報告している。また、異変や病変、怪我等の際も必ず報告し連携を取るようになっている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	☒ ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際になるべく家族の意見・要望がないか話を促している。苦情処理に関する情報を提供している。		
16		☒ ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を出す機会が開かれた環境であり、都度話し合いが来ている。		ケアに必要と思われるものでも高額なものは購入してもらえない。(ベッド、リフト、車椅子用体重計等)
17		☒ ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて柔軟な対応ができている。		
18	9	☒ ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にフロア毎にスタッフの配置固定をしている。人事異動の場合も利用者の方に影響を与えないよう努めている。		
理念を実践するための体制 7項目中 7 項目					
		I-5. 人材の育成と支援			
19	10	☒ ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の情報を職員に開示し、職員個々に応じて研修に参加したり、自施設で勉強会をしている。		施設内で個々の能力に応じたスキルアップ研修ができるようにしたい。
20	11	☒ ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数の事業所との連携を持ち、研修会を行う予定がある。(9月から)		交流の場を増やし、互いに支え合う関係作りをしていきたい。
21		☐ ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室は利用者の方とは切り離された環境に設置されている。	○	職員がストレスを感じないように互いに意見交換できる職場環境を今以上に努める。
22		☐ ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	委員会を設置して各自が進んで取り組めるようにしている。退職金制度が導入された。	○	事業所指定の研修等にも自由に参加できる勤務体制や人員配置に努める。
人材の育成と支援 4項目中 2 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
		Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23		☒ ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでに本人や家族と面接・説明の場を設け、希望等を個々のケアに対応している。		
24		☒ ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでに本人や家族と面接・説明の場を設け、希望等を個々のケアに対応している。		
25		☒ ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の希望においては他のサービス利用ができないが、必要な場合は可能な限り支援している。		
26	12	☒ ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自由に施設見学できる。通所のデイサービスでその場の環境に触れることで入居時早く馴染めるようにしている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4 項目					
		Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	13	☒ ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	可能な限り利用者の言葉に耳を傾け、寄り添うように努力している。		
28		☒ ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、現状報告や要望に耳を傾け、利用者の方にとって安心した生活を送れるよう家族と協力して支援している。		家族の介入が少ない方もいるので、関わりが増えるよう努力する。
29		☒ ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係に応じて面会などの時間を有意義に過ごして頂いている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		☒ ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	し職場の方や友人の方の訪問も受け入れし ている。美容院や病院等も行きつけのところ を継続利用して頂いている。		
31		☒ ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	ここに状況に応じて一人の時間も大切にしな がら孤立しない様に援助している。		
32		☒ ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も介護保険外のサービスや相談窓口 としてできる範囲で協力している。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
		Ⅲ-1. 一人ひとりの把握			
33	14	☒ ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを把握し、それに近づけるよう努めている。また、困難な場合もケースカンファレンスでより良いケアができるよう努めている。		
34		☒ ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に個人の生活スタイルを聞かせて頂き、可能な限りその人らしい生活ができるよう把握に努めている。入居後もそれぞれのなじみの生活スタイルを尊重している。		
35		☒ ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状況をスタッフ間で共有し合い、困難なことや不安等はカンファレンスを通じて改善している。本人のできることを様々な面からアプローチして把握に努めている。		
一人ひとりの把握 3項目中 3 項目					
		Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	15	☒ ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者中心にして個別に応じたケアプランを考え、カンファレンスを利用して意見をまとめて統合したプランを作成している。	○	ケアプランの作成にあたって家族の意見が含まれていないことがある。(確認は必ずして頂いている。)家族の方に意見を聞いたり、カンファレンスに参加して頂いたりに取り組んでいきたい。
37	16	☒ ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで月毎のケアプラン評価を行い、都度見直しやプラン変更して現状に合った個別ケアを実行している。		
38		☒ ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々のケア記録や個人情報管理しており、それらを基にケアプランへ反映したり、見直しをしている。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3 項目					
		Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	17	☒ ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中や介護保険外の対応等できる限り柔軟に対応できるように事業所内で協力して支援している。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		☒ ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に色々とお手伝いして頂いたり、保育園の協力を得て利用者との懇親会を開いたりしている。消防とも避難訓練等協力して頂いている。		
41		☒ ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリや通所での利用等できる範囲で支援している。		
42		☒ ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、地域として助言をして頂いている。相談窓口としても協力を依頼している。		
43	18	☒ ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの病院と連携を築き、かかりつけ医から適切な医療支援受けれるよう協力している。		
44		☐ ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族からの要望や、必要と判断した時には受診し、適宜助言や治療を受けられるように支援している。	○	認知症専門の連携医はないので、日常的に相談できる関係が持てるように努めていきたい。
45		☒ ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	今年の四月より常勤の看護師を設け、日常の健康管理や医療面で医師、介護職員と連携している。		
46		☒ ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には家族と連携を取り、本人に安心して過ごせ、早期退院できるよう努めている。そうした場合の受け入れ対応もできている。		
47	19	☒ ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関しては、介護職員・医療機関・家族と密に報・連・相を行い、その人に対して統一したターミナルケアになるようしている。終末期ケアに関しては家族・本人の希望を尊重している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		☒ ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族とも密に話し合いを行い、重症時の入院対応やホームでの看取り等その方の状況に応じて迅速に対応できるよう努めている。		
49		☒ ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最低限の引き継ぎはしている。	○	退居の際は、生活自体の変化が激しいため細かいところまで話し合い本人に混乱のないように家族と連携を取りたい。
地域資源との協働 10項目中 9 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		Ⅳ-1. その人らしい暮らしの支援			
		Ⅳ-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	☐ ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個人を尊重した言葉掛けや対応は注意してケアしている。	○	記録の管理が不十分で人目につくところに置いていたり、触れたりする。場所を決めてしっかり管理していく必要がある。入浴やトイレのプライバシーも注意する。
51		☒ ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の意見が言える方は、その方の希望や思いに出来る限り添えるよう努力している。質問形式の声掛けでも本人の意見が出るよう考慮している。		自分の思いをうまく表現したり、声に出せない方に対してもう少し丁寧な対応を行い、想いを少しでも共感できるようにしていきたい。
52	21	☐ ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように努めるように心がけている。	○	現状のケアにおいて職員や業務優先になっていることも多いので注意していきたい。
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 1 項目					
		Ⅳ-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		☒ ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しては個人の好みを尊重して支援している。二月に一回訪問美容室を利用。行きつけの美容院がある方は希望する店でして頂いている。		
54	22	☒ ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には手伝って頂き、食事に対して興味や意欲を持ってもらえるよう努力している。		
55		☒ ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しても個人の好みに合わせて対応している。煙草に関しては火災防止のため一定の場所ですべて頂いている。		
56		☒ ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各々の排泄に合わせて十分な検討をした上で排泄の支援をしている。おむつの使用も本人をできる限り尊重した対応を心掛けている。		
57	23	☒ ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り平等に入浴して頂けるよう別シートで入浴状況を管理している。	○	急な希望に対しても可能な限り対応していきたい。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		☒ ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠状況や生活習慣を踏まえ気持ちよく休んで頂けるよう適度な昼寝等もとって頂いている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6 項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	☒ ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	動いて頂ける方にはそれぞれにあった手伝い(盛り付け、ゴミ捨て、洗濯物量み等)をして頂いている。テレビや音楽等も好みに応じて楽しみの一つとして支援している。		
60		☒ ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理したい方もおられ、その方には財布を持って管理したり、買い物にも行って頂いている。		
61	25	☒ ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外へ出たい方もいられるので、中庭でおやつをしたり、近所を散歩したり、買い物にも同行して頂いている。	○	個々の希望にいつでも応じられるような体制作りをしていきたい。
62		☒ ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事等や個別で外出(バラ園、食事処)して頂いている。	○	家族の方の介入が少ないので増やせるよう話をしていきたい。
63		☒ ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話や携帯電話を所持しておられる方もあり、都度対応している、手紙もポストへの投函等できる限りで支援している。		
64		☒ ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日頃から積極的に会話をを行い、訪問者の方にも気軽に訪問して頂けるようしている。挨拶も気持ち良く迎えられるよう笑顔で対応している。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6 項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		☒ ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会を設け、研修等を通して拘束廃止に努めている。		スピーチロックについては言葉使い含めて注意していきたい。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	☒ ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間居室に鍵をかける方はおられるが、基本的には日中は施錠しない様に心掛けている。		
67		☒ ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中リビングには常時職員がいるように努めている。夜間もこまめに巡回を行い、安全には注意をしている。	○	帰宅願望で徘徊がある方に対応できないこともあるので、余裕を持った対応ができる様ケースで考えていきたい。
68		☒ ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類に関しては危険が多いので施設側で管理して必要な時は常時お渡しして使用して頂いている。他の物でも怪我や事故の恐れがある場合は都度対応を検討している。		
69		☒ ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	未然に防げる事故については職員に日々注意喚起を促しケアしている。毎月ヒヤリハットや事故報告について各階で議論し防止に努めている。		
70		☒ ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一回の救命救急講習を実施して万一の事態に備えている。他にも応急手当等は看護師や医師と連携してできている。AEDも設置している。		全ての職員が冷静に迅速にできているかという点では疑問があるので個々のスキルアップも含め自覚を持っていつ何時でも適格な対応ができるよう職員同士で高
71	27	☒ ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の火災避難訓練を実施。本番を想定して訓練している。	○	近隣住民との連携体制。設備・備品の点検と管理に努める。
72		☒ ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	あらかじめ事故のリスクがある方に対しては家族と相談を行い、本人のリスク回避を目指してケアをしている。個々のリスクにも応じて説明・報告は欠かさずしている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8 項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		☒ ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者個別で健康チェックシートに記録して変化等が顕著に見られる場合は、医療・家族へ情報提供を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		☒ ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服薬情報は保存して常時見られるようにしている。管理はスタッフで行っている。変更がある場合はスタッフ全員がわかる勤務日誌に申し送りとして記入している。		全スタッフが利用者の薬に関して知識を深める必要がある。誤薬がまれにあるので確認の徹底を欠かさない。
75		☒ ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や適度な運動をしている。ひどい症状の方には服薬等で調整している。		
76		☐ ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々によって見合った口腔ケアを行っている。また、口腔体操も少なからず取り入れている。	○	全員毎食後できているかという点では疑問がある。スタッフの意識の向上が必要である。
77	28	☒ ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個別で把握して栄養摂取に努めている。少ない人には代替したものを摂取して頂いている。個別の状態に合わせて食事携帯を検討し、食事を楽しんで頂けるよう努力		
78		☒ ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	出勤時には手洗い・うがいの徹底。手すり等のハイター除菌もしている。感染症については研修を行い職員で注意喚起している。		
79		☒ ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品に関しては賞味期限・消費期限に注意して冷蔵・冷凍庫等で正しい保管に努めている。台所用品は洗剤で洗い、乾燥機を使用している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 6 項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		☐ ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	午前中は玄関を開放して、午後には門扉を開放して訪問者も入りやすい状態にしている。	○	徹底してできていないので再度認識して実行していく。
81	29	☒ ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある植物を館内に取り入れている。トイレ等も掃除に注意して使いやすい環境作りをしている。		棚等が整理されておらず乱雑になっていることがあるので整理整頓を心掛ける。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		☒ ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや和室があり、気の合った者同士が自由に過ごせるようなスペースを作っている。		
83	30	☒ ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々にある生活スタイルに合わせて居室もその人にとって使いやすい環境になるようにしている。		
84		☒ ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節に応じて利用者に合わせた温度管理を行っている。換気に関しても空気清浄機を利用したり、天気の良い日は窓の開放を行っている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 4 項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		☒ ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手すりを設置、段差も小さくなるようにしている。歩行時に邪魔なものがないように余計なものを置かない様に配慮している。		
86		☒ ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	必要に応じて声掛けを行い、残存機能に応じた対応をしている。混乱や失敗についてもフォローできている。		
87		☒ ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りに花壇を設置して園芸活動できるようにしている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3 項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ほぼ全ての利用者の方が介護度や認知機能が低下していく中で、一人一人にあった柔軟なケアができるよう努め、ADLの維持とQOLの向上を目指していきたい。

評価結果整理表

個 別 表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	☒ 理念と共有	2 項目/3項目
－2.	☒ 地域との支え合い	1 項目/3項目
－3.	☒ 理念を実践するための制度の理解と活用	4 項目/5項目
－4.	☒ 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	☒ 人材の育成と支援	2 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	☒ 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	☒ 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	☒ 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	☒ 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	9 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	☒ 一人ひとりの尊重	1 項目/3項目
－1. (2)	☒ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	☒ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	☒ 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	☒ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	6 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	☒ 居心地のよい環境づくり	4 項目/5項目
－2. (2)	☒ 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総 合 評 価

I 理念に基づく運営（☒ 5項目／5項目）について

事業所内においては理念は浸透しているが、地域に発信する機会があまりない。事業所がある事は知っている方もおられるが、そこでどういったことが行われているかあまり理解されていないと思われる。運営推進会議の開催や多目的ホールの利用を活用しながら、徐々に地域に向けて発信していきたい。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援（☒ 2 項目／2項目）について

日々、利用者と接する中で可能な限り寄り添い、信頼関係の形成に努めているが、利用者家族とのつながりをもっと密にすることが今後の課題である。また、共用型デイサービスを始めてその方々から入居に至った方が現在1名なのでこれから先、混乱なく入居し馴染めるようにするためにもデイからの入居が増えるよう努めていきたい。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント（☒ 4項目／4項目）について

ホームの理念でもある「自分らしく暮らしていける」支援を日々、心懸けて一人一人に応じたケアプランを作成・実施にあたっている。センター方式シートを使用し、個人の細かな情報を共有することが少しずつできるようになっている。ただセンター方式も利用者の状況に応じた更新が必要であるのでそこは、課題としてチームで行っていききたい。また、ターミナルケアが連携を取りながら落ち着いて対応できるよう議論や検討をしていきたい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（☒ 7項目／7項目）について

利用者がより良い暮らしができるよう、これまでの生活習慣や好み、馴染みのあることなど希望に添えるように努力している。また、健康で安全に生活して頂けるよう、社内・社外の研修や講習を行ったり、医療関係者とも協働して連携を築いている。そこに家族も絡めていくことが今後の課題である。

V サービスの成果に関する項目について

利用者がその人らしく暮らせるよう支援すると共に職員も生き生きと働ける環境作りを今後も努めていきたい。主体はあくまで高齢者であるということをもう一度念頭に置き、日々のケアから見直すべき点は一つ一つ改善・見直しをしていきたいと思う。

★サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日: H21 年 9 月 30

前回評価年月日: H20 年 8 月 1

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
5	4	地域との付き合い	H21.10月～	多目的ホールの利用 を呼びかけ輪を広げ ていく。		
8	3	運営推進会議の開催	H21.10月～	2ヶ月に1回、定期的 に開催する。		
35	1	個人ファイルについて保 管場所について	H21.10月～	重要書類につき保管 場所を決め、整理整 頓をしっかりと行う。 フェイスシートの記 録・日常の記録を把 握する。		
62	5	外出	H21.10月～	家族を含めた外出企 画		
76	2	口腔内の清潔保持	H21.10月～	毎食後の口腔ケアの 徹底。協力歯科医の 検診		